

# アイテム

2008  
冬  
Vol.02

(財)伊丹市文化振興財団  
TAKE FREE

伊丹でめぐる  
アジアのアジ



「オトラクな関係」  
「ノーミュージック」  
「ノーイタミ」なブルースバー

「終演後の一軒」  
琵琶でたどる故郷のカレー

「芸は身を助く  
なぎなたで  
女の品格をつかみたい



「伊丹遺産」  
芭蕉直筆の名句短冊

ニシキ  
アザシ

## オトラクな関係 2 ブルースバー「FOOL's PARADISE」×カサスリム

「街に音楽を」とはじまった伊丹オトラクで芽生えた、マスターとミュージシャンとの例えばこない関係



「ノーミュージック、ノーイタミ」なブルースバー

カサスリム  
癒しのブルースメン。「笑って泣ける」ライブは定評あり。ライブアルバム「カサ・テンボ」は全国の有名CDショップで発売中。毎日放送「mm-TV」(毎週日～木深夜)の1月エンディングテーマ曲。  
<http://www.sparkle.org/slim/>

FOOL's PARADISE  
(フールズパラダイス)  
池尻1-57 ☎090-1145-7555  
ランチ]11:00～14:00  
ナイト]21:00～3:00 木曜定休  
<http://www.geocities.jp/fools0701/>

バーは大人の遊び場である、というように「フールズパラダイス」は毎夜明け方まで営業している。伊丹の西、171号線線ミヤ沿いで営業して10年。本格ブルースバーであるウッドテイストの店内はロバートジョンソンなど名だたるブルースマンの写真が飾ってある。

ライブはオープン当初より2、3か月に1回程度、お客さん経由でつながりを大切にしていたブッキングがなされている。カサスリムさんのライブもまさにそう。ライブより先に店内BGMでおなじみとなり、初ライブが行われた時はすでにファンとなったお客さんでいっぱいだった。カウンター内にズバリと立つ様子に「誰が客かわ

からなかった」とカサスリムさんは笑いながら語る。演奏中の合いの手はもちろん、MCのかけあいと一緒にセッションする様子は古い友人のようだ。「音楽好きな人が多いから」とはマスターのシズさん。

カサスリムさんは年に1、2回行うフールズパラダイスのライブで、みんなに再会するのが楽しみだという。「ノーミュージック、ノーライブやないけど、それを地でもやっていく。生のライブを身近でやっていく。ライブはみんなでも共有できるのがええやないですか」とビール片手に照れながら語るカサスリムさんに頷くシズさん。フールズパラダイスの夜は今日もながい。



取材と文  
中脇健児●事業企画課事業担当 ヒゲ、メガネ、坊主と三拍子そろった財団屈指の個性派。「伊丹オトラク」「鳴く虫と郷町」など多彩な企画でホールから飛び出す。本誌編集長も務める。

目指すのはこんなアイテム(リニューアルについて)

市内の文化施設7施設を運営管理する(財)伊丹市文化振興財団、「伊丹のイベントまるわかり」として7施設の公演情報などをまとめて発行していたitem(アイテム)を「まちとアートをつなぐ伊丹のアイテム」として2007年10月よりリニューアルしました。展覧会やコンサートを観に、せっかく訪れた伊丹のまちなかも遊び心で楽しんでいただけたら、と思います。

飛行機に乗らなくても、伊丹で出会える

## アジアな風景

view

○ヒロコヒー  
伊丹いながわ店のテラス



ブラジル郊外をイメージした同店。雄大な河原、空港滑走路、ゆっくり走る車などを望む景色はアジアにも通じる。●北伊丹5-15-1 ☎072-775-1030 無休

○緑ヶ丘公園の  
賞月亭



どう見ても中国、な伊丹。友好都市・佛山市より寄贈された中国古来の庭園建造物を存分に眺めよう。●緑ヶ丘1丁目・2丁目

## 東洋医学 2千年の歴史

漢方専門吉岡薬局 ●宮の前1-4-17  
☎072-772-3778 日祝休

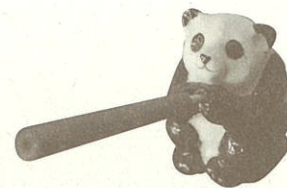
創業1947年。「伊丹の薬局では一番古いらしいですよ」と物腰柔らかな薬剤師吉岡さんの語り口は仙人か老師のよう。西洋医学を基本とした漢方薬の山本派に属する、というウンチクだって、220種ある煎じ薬の前には貴禄十分、東洋の神秘、ここにあり。



## 調味料もインテリア。 アジア雑貨ショップ

roughAsia(ラフアジア) ●東有岡2-35  
☎072-777-0539 木曜休

姉妹二人で経営するアジア雑貨専門店。雑貨的感覚でナンブラーやジャムなどの調味料も置いている。タイやバンコクまで直接買い付けるこだわりと遊び心のなせる技。インテリアでも十分楽しめるアジア調味料、要チェックです。



## 伊丹でめぐるアジアのアジ

伊丹アイフォニックホールでは自主招聘によるトルコの民俗音楽コンサート。工芸センターではアフガニスタンの絨毯展。2008年の伊丹はアジアから始まる期待大。気分を盛り上げる為にシルクロードよろしくアジ巡りで「まちなかアジア旅行」と洒落込んじゃいましょう。

food



## アジアを感じるイベントへ

event

アジアなアジを一層引き立てる3つのイベント。味覚、聴覚、視覚を刺激するスパイスメニューをどうぞ。

### 昆虫市場へようこそ



タイやラオスの市場を模した屋台が並んだ展示室。お皿には肉や魚料理…ではなく「虫」! パッタやタガメの素揚げがてんこもり。ゲテモノ扱いするなかれ。人と自然のつきあいの姿がここにあり。関西初の昆虫食展!

伊丹市昆虫館「昆虫食〜こはんやでえ〜」  
1/28(月)まで。9:30~16:30(入館は16:00まで)。  
1/20(日)11:00、試食の会あり(当日整理券配布)。  
入場料は入館料のみ。☎072-785-3582。

### アフガニスタンの伝統絨



60センチ幅1日3センチ。織り進める絨毯が、である。「100年使える」品質にもうなずける。現地の自立支援を行うNPOと共催し、市民やアーティストのデザインを現地で織り上げた作品が見どころ。伝統柄絨毯等、販売あり。

工芸センター「第2回アフガン絨毯 Heart Piece展」  
2/7(木)~3/2(日)10:00~18:00  
(入館は17:30、最終日は16:30まで)。入場無料。  
☎072-772-5557

### トルコの民俗音楽と踊り



アジアとヨーロッパの接点トルコから、名門国立イスタンブール工科大学トルコ民族音楽院の精鋭14名が来日! 音色の万華鏡、至妙なステップ…7拍子など魅惑的な変拍子のリズムにのせたトルコ各地の音楽と踊りを。

伊丹アイフォニックホール 地球音楽シリーズ132「歌い、踊り、奏で にぎやかにトルコ」  
3/23(日)16:00。一般3,500円、学生2,500円(当日各500円増)。☎072-780-2110

## コリアン専門店

福南商店 ●中央4-5-14(ビバ伊丹内)  
☎072-772-7767 無休



「うちは庶民的な店だから、値段も手ごろだよ」



店主の牟(もう)さん

キムチ・韓国食品専門店「福南商店」。ハンゲル語の商品、お祭りの飾り、人形で満たされた店内は韓国一色。21種のキムチはどれも牟(もう)さんお手製だ。にんにくの軸と桔梗の根などを混ぜたキムチ「チャンボン」は「他所にはない」自慢の一品。

## 本格インドカレーを味わう

シャグン ●伊丹1-10-15-109アリオ1番館  
☎072-783-6239 第3火曜休



作るインド料理

「辛さは選べる4種類、日本人好みにしています」



店主のノーティヤールさん

JR伊丹駅近くアリオ1にある北インド料理専門店。30種類を誇るカレーに加え、本国から持って来たご自慢のタンドール(土かまど)で作る名物巨大ナンやタンドーリチキン&エビはファンも多い。スタッフ全員インド人。まちなか異文化交流にふさわしい。

伊丹には感動の余韻を残して、お酒と料理がちゃんとあります。

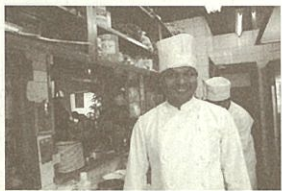
琵琶でたどる故郷のカレー



重厚で、時に麗らかな語りと共に、源氏物語の世界を紡ぎ出す上原まりの筑前琵琶。奈良時代に日本に伝来し、明治期に確立されたこの音色の源流を遡れば、アジアの西の果てに始まる、様々な文化の交差と伝来の道が見えてくる。琵琶語りと平安文学の時を越えた出会いを楽しんだなら、琵琶のふるさとに想いを寄せつつ、西国インドの味との出会いを楽しみたい。

2/24 源氏物語を琵琶語りで楽しむ  
ラストホール  
筑前琵琶の演奏と朗読で歴史を超えた様々な人間像を描き出す上原まり。今回は瀬戸内寂聴現代語訳源氏物語の『若紫』『六条御息所』を。源氏物語が世に出てちょうど千年目。琵琶の音色に導かれ、優雅な平安時代に思いをさせたい。  
『源氏物語千年紀 上原まり琵琶語り』2/24(日) 14:00。一般2,500円(当日500円増)。高校生以下・60歳以上2,000円(当日400円増)。前売券完売の場合、当日券なし。☎072-781-8877

ラストホールを出て五合橋線を北へ上ると、道沿いに見えてくるのがインド料理専門店shanti(シャンティ)。インドの高級ホテルで勤めたシェフがつくる家庭料理が人気のお店だ。ダール(レンズ豆)の粉を練った薄焼き「パールド」はパリパ



「この料理は『アッチャーカナ(おいしい食事)』」シェフのキンルーさん

リとした食感。温かいチャイと一緒に頂けば香ばしいお煎餅のようだ。「カレーダンゴ」はポテト・玉ねぎを混ぜてからつと揚げた揚げ団子。チリパウダーと玉ねぎのソースをつけて食べれば、刺激的な辛さにラッシーの甘さが引き立つ。ビールに合うのは「ヴェジタブルサモサ」。ポテトとグリーンピースを分厚い皮に包めた三角パイはさくさくとした歯ごたえで揚げ餃子のようだ。異なる時代と文化が溶け合う出会いを、耳と舌で楽しむ伊丹の1日。スパイスの香りにすっかり馴染んだころには、記憶の彼方にインドへと続く伝来の道が見えるよう。



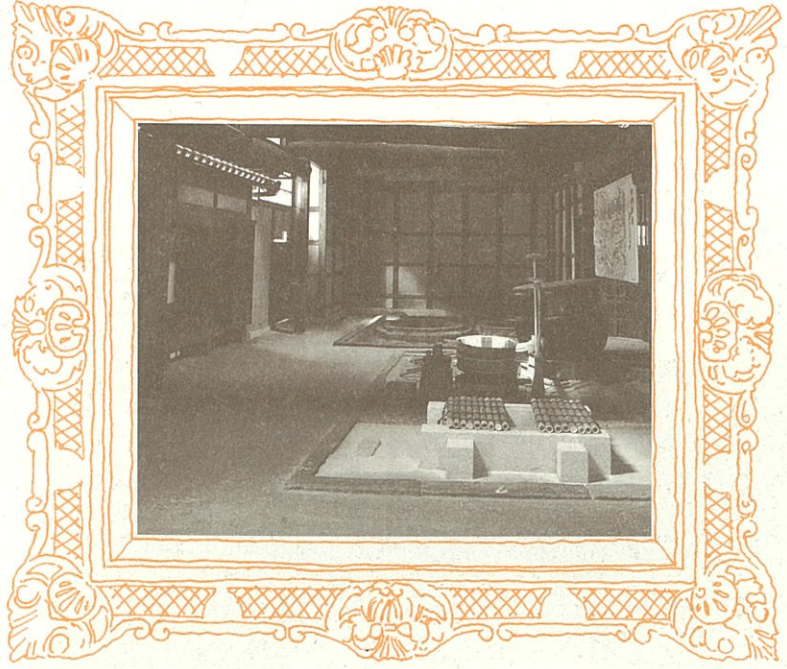
shanti(シャンティ)  
御願塚6-2-40 ☎072-783-8881  
火曜休 写真は「カレーダンゴ」と「ラッシー」。ナンやタンドールの種類も豊富。ランチ(840円〜)・ディナー(2,650円〜)コース料理あり。



まちなか  
美術手帖

学芸員が美術館から飛び出し、伊丹のまちなかにたずむアート作品を紹介。普段何げなく見ているものが実はすごい作品だったんです。

旧岡田家住宅



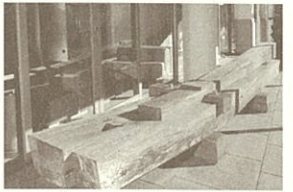
遺された酒蔵の記憶

みやのまえ文化の郷にある旧岡田家住宅。現存する最古の酒蔵とされる重要文化財である。ひんやりと静かな空気に木の香りがほのかに漂い、黒茶色の柱や梁に時と記憶が染み込んでいる。

江戸時代、酒造業が隆盛を極めた伊丹にはたくさん酒蔵があった。しかし多くは解体され、この一つだけが遺される。代々米問屋と酒造業を営んでいた岡田家も敷地内にいくつもの酒蔵をもち、1983年まで使われていたがその3年後に解体された。今は美術館と柿衛文庫の庭が広がる。

ただ、酒蔵が今でも息づいていることを庭の脇にある作品、江口週「遺された時―蔵の組舟」が教えてくれる。  
角形大小の松の木が組み合わされ舟の形をする作品。使われるのは解体された酒蔵(千石蔵)の棟

「遺された時―蔵の組舟」1992年  
彫作家・江口週(1932年京都市出身)はマルセル・ブルーストの影響から「時」をテーマにする作品を制作。当作品とマケット(100分の1模型)は伊丹市立美術館所蔵。

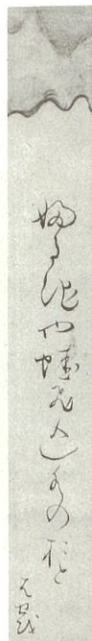


取材と文 岡本梓 ●伊丹市立美術館所属 「諷刺とユーモア」をコンセプトとする美術館にふさわしく、伊丹をナマから見る「理論よりも感性」な現場肌の学芸員。近現代美術を専門とする。

取材と文 宮村賢治 ●いたみホール所属 期待のルーキー。大学で法律と哲学を学ぶも、アートプロジェクトのオモシロさにかかれて大学院へ。伊丹でも何か面白い事が出来ないかと日々商店街やまちなかをぶらつく。



柿衛文庫●町・市長も務めた俳文学者・岡田利兵衛(リへえ)氏の個人文庫をもとに1982年設立。文庫名の由来は同氏の雅号から。約1万点の俳諧資料を所蔵し、日本三大俳諧文庫の一つといわれる。



縦36cm×横5cmの軸仕立て。上部に藍色の雲形模様がある。

### 国語の教科書でお馴染みの芭蕉直筆、名句短冊

「ふる池や 蛙飛込 水のおと」まさにこれが、国語の教科書にあまねく登場する芭蕉の短冊オリジナルだつてこと、みなさんご存知でしたか? 所蔵するのは柿衛文庫。創設者の岡田氏は伊丹町長時代、伊丹出身の俳人上嶋鬼貫の短冊との出会いをきっかけに、系統だった俳諧資料の収集を始めました。鬼貫と並び称される同時代の芭蕉へと研究対象が広がったのも自然な成り行きといえるかも。

この句は、それまで鳴き声を詠むものとされていた蛙について、飛び込む姿をはじめて詠んだ革命的な一句。値段が高いくらいと最初は購入を躊躇うちよりましたが、最終的には「芭蕉の書き癖がはつきりして良い優品」と見定め購入。『芭蕉の筆蹟』を著し、書風を熟知していた岡田氏ならではの鑑識眼に裏打ちされた決断でした。こんなわけで数ある同句短冊の中でも特に優れた一品が、伊丹に遺ったのであります。

実物をぜひ見たい! 毎年1回程度公開される短冊。次のお目見えはおそらく来年の秋9月頃では?とのこと。お楽しみに。

### 財団四季の芸は身を助く

vol.2

修武館

小西家が1786年に設立。現在、なぎなたは6歳から82歳まで70名ほどが通う。



伊丹市文化振興財団・加藤四季。ミュージカル俳優を夢見る歌って踊れる「財団四季」がまちへ飛び出し、あらゆる教室やスクールに挑戦するトツゲキ系連載。今回のテーマは

伊丹のお家芸、なぎなたで女の品格をつかみたい



伊丹が誇る日本三大私設道場の1つ「修武館」。220年の歴史を持ち、なぎなた「天道流」を伝承し続ける総本家です。

中学生から大人まで入り乱れ、熱気溢れる道場では、床やなぎなたが発するしなやかな木の音と透る声が共鳴しあい、独特の空間を生み出しています。

神前に一列となった礼の後、なんと2人の世界チャンピオンの中平さん、山口さんから稽古をつけてもらえることに!

ここでもまずは礼から。相手と目を合わせたままの礼は不思議な角度で初めての感覚。中段の構え、前後移動、面打ちと一連の動作を教わりました。

「前足の指先とおへそを相手

に向けて、打つと同時に体を半身に開いて!」。素直にやればできそうな事にも大苦戦。なぎなたの長さも手伝ってバラバラの方向を向く体は残念ながらサンバ風に。お二人から「踊らないでね」と…ホントスママセン。

面打ちでは声を出して放つ時、右手は必ずへその下でシメるのが重要ポイント。ここがきまらないうち、面もきまらない。成功する時、なぎなたは小指だけで持てるんだとか。この感覚が掴めなくて腕力でごまかしていたら、案の定次の日筋肉痛に…。

皆さんブレない軸を持った立ち姿もとても魅力的。鍛えられた肉体と磨かれた内面に凛とした女性の秘訣を教わりました。



(写真上) 試合稽古は一転激しい打ち合いに。武道たる所以を実感。(写真下) 一同揃う所作は思わず息を呑む美しさ。

天道流火曜18:30~ 青年の部木曜18:30~ 少年の部土曜14:00~ ※月水金は剣道の稽古もあり。会費毎月4,000円。入会金10,000円。お問い合わせは☎072-772-3333



取材と文

内山真理子●伊丹アイフォニックホール所属 世界の音楽を紹介する「地球音楽シリーズ」コンサートなどを担当。ローカル〜グローバルな「伝統芸能」と日々奮闘中。



取材と文

加藤四季●いたみホール所属 声楽を学び、社交ダンスでは全国大会出場経験も持つ「歌って踊れる」ホールスタッフ1年目。「体力なら誰にも負けません」。

ほっこりあたたか  
フェルトのアトリエ

寒い季節に恋しくなる羊毛。今回はフェルト作家、溝口恵子さんのアトリエを訪ねて来ました。もともと喫茶店だったアトリエは、ちょびりアンティークな雰囲気です。大きなカウンターや木製のお洒落な壁、珈琲カップなどがたくさん並んでいたり、食器棚には作品やフェルト素材がぎっしり。作業台として使っているテーブルは、シルバ―人材センターから安く手に入れたものだとか。物を大切に作る心意気が伝わってきます。

昔からものづくりが好きだった溝口さんは、紡績会社に勤めた後、結婚を機に関西へ。なんと、工芸センターの造形講座をきっかけにフェルト作りを始めたそうです。ふわふわの羊毛にお湯をかけ、こすり合わせて形づくられるフェルト。訪れた時はちょうど娘さんもいて、親子で肩を寄せ合い、作品を作る姿

### クラフト作家の 仕事場をたずねて

フェルト作家の溝口恵子さん



(上) 棚にはフェルト素材がたくさん。  
(下) お湯とせつけんを使い、もみ固めているところ。

溝口さんのフェルト講座は 1/10 (木) より伊丹市立工芸センターにて、伊丹郷町クラフトショップでは作品も展示販売中。月曜休館、10:00～18:00、入館は 17:30 まで



溝口恵子(みぞぐち けいこ)  
東京都生まれ。阪神淡路大震災後伊丹に移り住む。1/15(火)よりSTELLA&KIRANAにて『フェルトのアクセサリー展』を開催。  
<http://bakkers.jp/~mizo/>

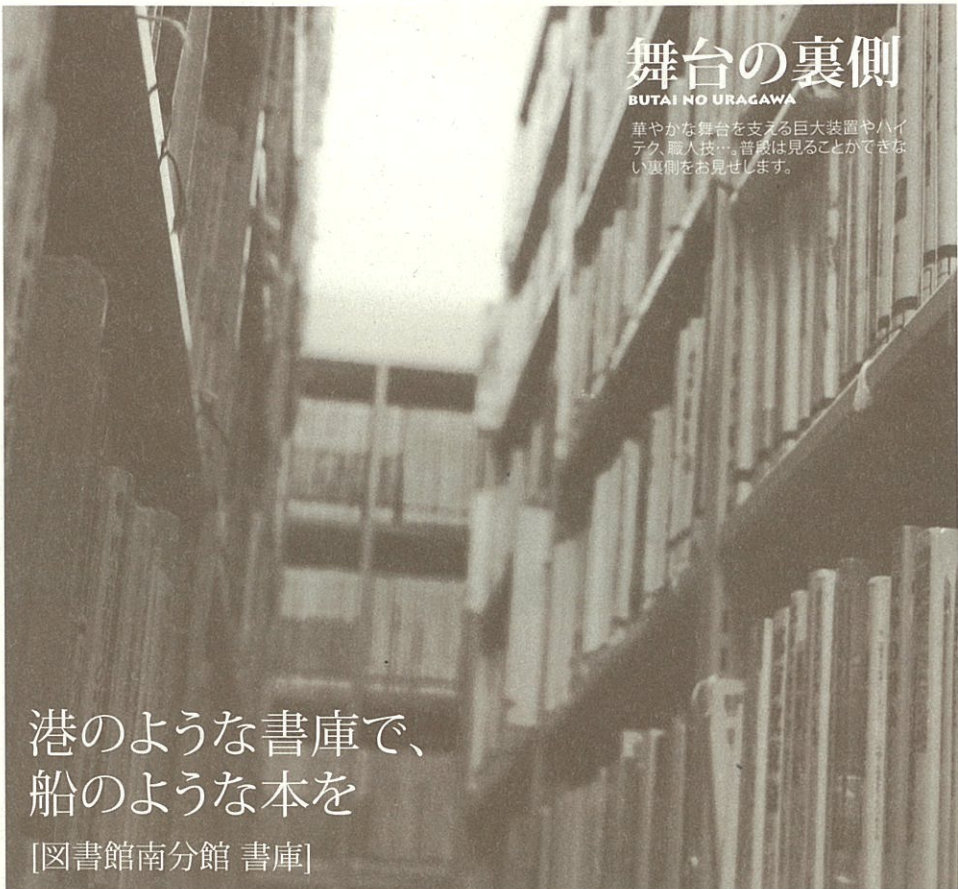
は何とも微笑ましい光景でした。そんなアトリエから生まれる小物やバッグは色鮮やかで、とっても可愛らしく、花や植物をモチーフにした作品は、ほっこりと温かみがあります。「品質を一定に保つことを常に心掛けています」という様に、1つ1つ丁寧に作られたものばかり。

「フェルトにこだわらず、ものづくりをずっと続けていきたい」と、染織や洋服など生活の中で使える作品も多く制作されています。そういえば、私の家にも買っためた羊毛があつた様な…。溝口さんの明るい色の作品を見ていたら、私もまた何か作ろうかなあという気持ちになりました。

### 舞台の裏側

BUTAI NO URAGAWA

華やかな舞台を支える巨大装置やハイテク、職人技…。普段は見ることができない裏側をお見せします。



### 港のような書庫で、 船のような本を

[図書館南分館 書庫]

ラストホール1階に図書館南分館はある。585平米という小さなサイズの為か、地域密着のアットホームな雰囲気が漂っている。分館ながら蔵書数は10万冊を超え、1日の貸出は約1500冊にのぼる。蔵書数の3分の1にあたる約3万冊が、カウンター奥の意外に狭い閉架式書庫に所狭しと収められている。ここは、利用者のリクエストがあつた際や書棚の入替などの際に本の出し入れをする、隠れた書庫だ。

全集などの分厚い本がひしめきあい、貸出と返却を繰り返す様は、港を想起させる。司書という灯台が、市内の蔵書を全てデータベース化した図書システムを駆使し、素早く求めるものを一筋の光となって指し示してくれる。

返却された本は、コンディションを確認され、必要に応じて専用テーブルなどで修復作業が施される。それもまた司書の仕事であり、万全の船出を支える整備士のようなものである。

本を胸に目を閉じれば、書庫や司書の息吹を感じるに違いない。本は、そのように航海を繰り返しているのだ。



取材と文

権田康行 ● 事業企画課施設担当 「困ったら僕に聞け」舞台、音響、電気、パソコン…7つの施設を股にかけ、技術を一手に引き受ける頼りになるメカニックマン。



取材と文

澤野宏美 ● 伊丹市立工芸センター所属 伊丹郷町クラフトショップを拠点に全国各地の作家とつながる。現在はショップと手織や陶芸などの講座を担当。自身もものづくりに魅せられ、身につけるものをチョコチョコ自作する。

3/5-3/30 伝統と格式の国の現代ジュエリー

英国で活躍中のベテランアーティストが若手を選出。総勢約40名の現代ジュエリー作品を展示。伝統の技術に鋭い感性がミックスされた作品を見てセンスを磨こう。今年はいギリス年でもありUK-JAPAN公認イベント。お見逃しなく!



『イギリス現代ジュエリー展』3/5(水)~30(日)。10:00~18:00(入館は17:30最終日は16:30まで)。入場無料。公開講座など予定。☎072-772-5557

3/2 世界一受けたい!音楽の特別授業

多才な活動と共に、そのユニークな個性でTVでも超人気の青島センセイ。クラシック音楽はどれも苦手...というアナタも、目からウロコ続出のブルーアイランド氏のナビなら絶対楽しめることけあい!客席と一緒に演奏できる曲もアリ♪



『青島広志のおしゃべりクラシック』3/2(日)14:00。一般4,000円、小中生2,500円、4歳以上2,000円。☎072-778-8788

1/5-2/17 俳句にみる初春のよこび

俳諧資料の中で、絵を楽しむものに「俳諧一枚摺」というすり物と「絵入りの俳書」があります。今展は、それらの中から梅や富士、凧揚げの図など、初春をテーマにした作品をご紹介します。どうぞ柿衛文庫での春をお楽しみください。



『初春のよこび 俳諧摺物と絵俳書』1/5(土)~2/17(日)。10:00~18:00(入館は17:30まで)。入場料200円ほか。☎072-782-0244

1/5-2/17 過激にして愛嬌あり

明治大阪の出版業界に旋風を巻き起こした諷刺雑誌『滑稽新聞』を出版した宮武外骨。波瀾万丈な生涯と反骨漢ぶりを遺された出版物で紹介。監修者・吉野孝雄の講演、赤瀬川原平(画家・作家)×南伸坊(イラストレーター)の対談あり。



『外骨—稀代のジャーナリスト』1/5(土)~2/17(日)。一般700円。10:00~18:00(入館は17:30まで)。☎072-772-7447

3/30 ウィンナオペレッタの最高峰!

とにかく明るく笑い飛ばして、気軽に楽しめるのがオペレッタ。全編に流れる優雅で軽快なウィンナワルツと共に「オペレッタの王様」とも評される本作を楽しもう。3幕には、新劇女優の一本美貴子さんが登場!



第22回伊丹市民オペラ。シユトラウス喜劇『ころもり』【全3幕・日本語・字幕あり】3/30(日)14:00。3,500円(当日500円増)。☎072-780-2110(伊丹アイフォニックホール)

3/29-3/30 市内中高演劇部、春の本場所!!

伊丹市内の中学高校演劇部の演劇フェス。各校の部活が一同に会し、それぞれが作品を発表します。各校じっくりと時間をかけて創り上げてきた、自信の作品群を一挙上演。演劇の未来をぜひごらんあれ。



『AI-HALL中学高校演劇フェスティバル2008』3/29(土)・3/30(日) 上演時間未定。入場無料。☎072-782-2000

2/3 声の表現力を感じる舞台

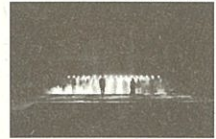
太宰治の短編小説『走れメロス』、世界の少女達を魅了したモンゴメリ原作の『赤毛のアン』の第2章を朗読劇で。日本語のこぼの美しさ、肉声の響きの美しさにこだわった舞台をお楽しみ下さい。



『あめんぼ座朗読劇「走れメロス」「赤毛のアン第2章」』2/3(日)14:00。一般1,200円、高校生以下・60歳以上1,000円。当日200円増。☎072-781-8877

2/1-2/3 <今>をになう才能が集結

若手演出家・杉原邦生が“不条理劇”の名作、E・Yイネスコ『椅子』に挑みます。「山海塾」舞踏手としても知られ、今回が本格的演劇作品に初出演の岩下徹と、(財)静岡県舞台芸術センター等での活動歴を持つ細見佳代の共演にもご注目。



Take a chance project 018 KUNIO03『椅子』2/1(金)19:00 2/2(土)・2/3(日)14:00。一般2,300円、学生&ユース1,800円。当日料金増。☎072-782-2000

2/9-2/10 市民による市民のための熱い企画

いつかこんなことをしてみたい...市民の皆さんの夢をいたみホールがお手伝いする「DOING!DOING!」。今回もコンサート、ダンス、美術展など計6本の選りすぐり企画が盛りだくさん!市民プロデューサーの情熱を、是非感じて!



『市民企画公募事業DOING!DOING!』2/9(土)、2/10(日)。内容、時間、料金は要問合せ。☎072-778-8788

2/9 魂からの叫び声!

ポスト「アントニオ・ガディス」の呼び声高い天才的ダンサー、ミゲル・アンヘル率いるフラメンコ舞踊団が本場アンダルシアより来日。情熱的な踊りと歌とギターが織りなす妖気(ドゥエンデ)渦巻く白熱のステージは圧巻!



地球音楽シリーズ131『燃焼するフラメンコ 神秘的瞬間』2/9(土)19:00。一般3,500円、学生2,500円(当日各500円増)☎072-780-2110

3/1-3/16 伊丹のアート、美術館に大集合!

伊丹市にゆかりのある様々なジャンルの芸術家により結成された「伊丹市芸術家協会」。絵画、彫刻、工芸、書、写真などの会員らによる作品展を開催。協会創立20周年の記念となる展覧会。



『伊丹市芸術家協会展』3/1(土)~3/16(日)。無料。10:00~18:00(入館は17:30まで)。☎072-772-7447

2/29-3/3 AI-HALL+小原延之共同製作第2弾

前回『nine』では一つの政治思想に偏る事なく、様々な視点で憲法第九条をみつめ好評を博したアイホールと小原延之との共同製作。今、注目の小原延之の最新作をお見逃しなく!



AI-HALL+小原延之共同製作『hunter』2/29(金)19:00 3/1(土)14:00、19:00 3/2(日)・3/3(月)14:00。一般前売2,500円、学生&ユース1,800円。☎072-782-2000

アイテム

2008 冬 Vol.02

2008年1月1日発行(季刊冬号・通巻55号)発行:(財)伊丹市文化振興財団編集:アイテム編集委員会表紙イラスト:ニシワキタダン

〒664-0895 伊丹市宮ノ前1-1-3 伊丹市立文化会館「いたみホール」内 Tel. 072-778-8788 Fax. 072-778-8585 http://hccweb1.bai.ne.jp/itamihall/zaidan Email itamihall@hcc1.bai.ne.jp

<配布場所>市内・近隣の文化施設でお取り扱いいただける他、こんなところで配布協力いただいています。アリオ1&2、伊丹酒蔵通り、東商店街、タミータウン、宮ノ前商店街、ビバ伊丹、三軒寺前広場周辺のお店、伊丹シティホテル...ほか市内各所

チケットプレゼント

- ①『外骨—稀代のジャーナリスト』1/5(土)~2/17(日)(美術館) 5組10名
②『青島広志のおしゃべりクラシック』3/2(日)14:00(いたみホール) 2組4名

ご希望の方は、はがきまたはEメールで郵便番号、住所、氏名、年齢、電話番号、アイテムの感想をご記入の上、上記文化振興財団住所宛「アイテムチケットプレゼント係」まで、1月31日までに必着。当選の発表はチケットの発送をもってかえさせていただきます。

